

派遣留学報告書

	記入日	2018年8月20日
氏名	きのした のぞみ 木下 望	
所属学部・研究科	総合科学研究科	博士 1 年次 (留学開始時点)
学生番号	D174399	
留学先大学	ヤンゴン	大学 (国名: ミャンマー)
所属学部・学科等名	人類学科	
在籍身分	交換留学生	
留学期間	2017年12月10日~	2018年7月26日

1. 留学するまで

留学しようと思ったきっかけ・理由	当該国を研究の調査地としており、現地を長期間で訪れる機会を必要としていたため応募した。
留学準備を始めた時期 (応募する何か月前ですか?)	2ヶ月程前。
事前準備について (どのような準備をしたか、しておけばよかったか)	1. ビザの取得方法とその種類・要件に関する情報収集 (インターネットでは詳細を得にくい) 2. 必要となる各種予防接種の種類と、接種回数および完了にかかる期間 3. 自己紹介ができる程度の現地語能力 (丸覚えの付け焼き刃でも可)

2. 渡航について

ビザについて	ビザの種類: 「教育ビザ (シングルエントリー/3ヶ月)」を2回取得、1度延長 ビザ申請先: ミャンマー共和国連邦大使館 (取得時)、ミャンマー国内各省庁 (延長時) 提出書類: (1)パスポート原本 (2)証明写真 (カラー,最近のもの,背景白無地,3.5cm×4.5cm) (3)入国/商用ビザ申請用紙 (4)パスポート写真面のコピー (5)留学受入大学からの推薦状 (6)ビザ申請費用の振込明細書原本 (7)取扱手数料 1,000円 (8)必要に応じ追加書類 場合によっては更に書類の提出を求められる。私は念のため、初回申請時は広島大学からの推薦状および英文の在学証明書を、2度目の申請時はさらにそれに加え、留学期間満了のためにビザの再申請および当該国への再入国が必要である旨を派遣先大学の学科長に文書にしてもらったものを添付した。また、旅行代理店を通す場合や、郵送申請をする場合は、その費用も別途必要となる。 手続きに要した日数: 約2週間 (代行業者に委託した初回申請時、郵送申請をした2度目の申請時とも)
その他必要な事前手続き	ビザ申請料は事前振込が必要である。また、郵送申請の場合は、申請手数料は別途現金書留郵便で送付する必要がある。参照元は以下のとおり。 教育ビザ申請について: http://www.myanmar-embassy-tokyo.net/visa2017/education-single.htm

	郵送申請について： http://www.myanmar-embassy-tokyo.net/visa2016/mail.htm
出 国 年 月 日	2017年 12月 9日
経 路 (往 路)	広島空港 — 仁川国際空港 — ヤンゴン国際空港
現 地 での 出 迎 え	<input type="checkbox"/> 有 (大学関係者 ・ その他) <input checked="" type="checkbox"/> 無
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	到着当日 (土曜日夜) はホテル泊。翌日に入居予定の寮へ赴く。翌月曜日に、大学キャンパスにて入寮手続き等事務的な処理および挨拶まわりを行う。派遣学生が私一人だったこともあり、特別なオリエンテーションはなく、疑問があれば都度確認する形式だった。
帰 国 年 月 日	2018年 7月 27日 (航空機のトラブルにより1日延長)
経 路 (復 路)	ヤンゴン国際空港 — 成田空港 — 羽田空港 — 広島空港

3. 留学費用について

支 出 額	総額	417,650	円
	内訳		
	渡航費 (航空券)	0	円 (広島大学負担)
	保険料	63,850	円
	教科書代 (学費)	500	円
	宿舍費	196,300	円
	光熱費	0	円
	食費	124,000	円
	交通費 (宿舍—大学間)	4,000	円
	交際費	16,000	円
	その他 (通 信 費)	13,000	円
	(費)		円
	(費)		円

4. 授業について

授業の概要について (カリキュラム, プログラム, 履修した科目, 時間数, 履修形態等)	科目名: Research Method 質的調査の方法やその考え方について学ぶ, PhD Preliminary 学生向けの講義。1回 90~150分の範囲で週1度開講。講義形式。
単位互換希望の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
授業・勉強についてアドバイス (留学前の履修, 留学中, 単位取得等)	ヤンゴン大学人類学科では、教科書はすべて英語で書かれたものが使用されている。しかし講義中の解説は科目や担当教員により英語とミャンマー語のどちらかでなされるため、履修にあたっては使用言語の確認が必要である。

5. 生活等について

(1) 留学先の住居について			
住居の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の寮	<input type="checkbox"/> アパート	<input type="checkbox"/> その他 ()
住居の広さ	約 20 m ²	同居人の有無	<input type="checkbox"/> 有 (人) <input checked="" type="checkbox"/> 無

住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 電気 <input type="checkbox"/> ガス <input checked="" type="checkbox"/> 水道 <input type="checkbox"/> 給湯 <input checked="" type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input checked="" type="checkbox"/> 水洗便所 <input type="checkbox"/> 暖房 <input checked="" type="checkbox"/> 冷房 <input type="checkbox"/> 台所 <input checked="" type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> 固定電話 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット <input checked="" type="checkbox"/> その他 (バスケットボールコート)
住居費	1ヶ月当たり 200US\$ + 1500ks×日数 (現地通貨) 約 25,500 円
留学先での住居全般に関するアドバイス	○2018年7月現在、給湯施設のある学生寮はないため、入浴は水シャワーあるいは水浴びとなる。○インターネット (Wi-Fi) の接続環境は、棟や部屋によって大きく異なる。ストリーミング動画が見られる水準の場合もあれば、全く使い物にならない場合もある。○停電・断水は週に複数回の頻度で発生するため (復旧までの所要時間はまちまち)、電子機器の充電はできるときにこまめにしておき、モバイルバッテリーと懐中電灯は渡航後速やかに手に入れることをおすすめする。○蚊帳は必須とはいえないが、冷房が使えないこともままあるため、据置型の購入を検討するとよい。○寮費の支払場所はこころろ変わるため、毎月サプライズが用意されているくらいの気持ちでいるとストレスが少ない。
(2) 医療について	
留学先でかかった病気、けが	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
有の場合、具体的な症状等 (情報共有しても差し支えなければ)	病院にはかかっていないため病気といえるかは分からないが、丸一晚程度の嘔吐下痢は滞在中数回経験した。特に渡航直後や一時帰国から戻った直後に多かったように思う。上下から出し尽くすと、ケロツと直った。
留学前後での予防接種の必要の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
有の場合、その種類、回数、費用、受けた医療機関名	必要な予防接種の種類に関しては、外務省のHPを参照した上で医師と相談することが望ましい。私個人は、O/A/B型肝炎 (15,660円+税×3回) O腸チフス (9,720円) O日本脳炎 (6,170円) を接種した。これ以外に推奨されている破傷風ワクチンは、過去に接種歴があるため今回は受けていない。また、狂犬病ワクチンに関しては、暴露後接種が有効であることや滞在地が都市部であること、渡航までの日数などを踏まえて総合的に判断し、医師との相談の上で見送った。A/B型肝炎ワクチンは、接種回数が少なく、また間隔も短く済む輸入混合ワクチンを3度接種した。 受診した医療機関：おだ内科クリニック (広島市中区：HPから問い合わせると、接種スケジュールや費用をメール送信してもらえる)
日常的な健康について不安が	<input checked="" type="checkbox"/> あった <input type="checkbox"/> なかった あった場合その理由：食を含む衛生に関して、また、交通事故への不安が常に存在するため。
留学先国の医療事情 (日本と比較して)	実際に自分が病院を受診していないためなんともいえない部分が少ないが、英語や日本語で対応可能な病院は増加している。一方で、すさまじい交通渋滞のために、救急車が渋滞にはまり込んでいるところをよく目にした。救急車のお世話になることがあれば、そのときはもう棺桶に片足入れたも同然と考え、事故に遭わないよう、道を渡る際は非常に慎重になった。
留学先での健康管理、衛生面について特に注意すべきこと	現地の友人や教員から強く注意を促されたのが、雨季の食事である。雨季はカビやハエが増加するため、特に屋台や食堂の汁物には注意するようと言われた。ある程度下痢や嘔吐は避けられないが、発熱を伴う等、明らかに異常が見られる場合は躊躇せずに病院へ行くべきである。また、虫刺されも避けきれないが、蚊への対策は十二分にすることがある。日本で販売されている虫除剤は有効成分の含有量が少ないため、現地で調達することをおすすめする。
(3) 食生活についてのアドバイス	
食は文化の一部なので、ぜひいろいろなものに挑戦してみたいが、上述の通り、いつどこで何を食べるかには注意が必要である。また、そもそも油分と香辛料の多い食べ物基本になるため、整腸剤や胃薬は必携。生水は絶対に口にせず、きちんと封がされたペットボトル飲料を飲むこと。	
(4) 服装についてのアドバイス	

<p>年間を通して日射しが強いので、男女問わず日傘は必須（現地の人は日傘・雨傘の区別はあまりしない。とにかくいつでも傘を持っていることが重要）。薄手の長袖もあるとよい。商業施設等、冷房が備え付けられている場所は恐ろしいほどに冷えていることが少なくないので、羽織り物は重宝する。また、パゴダ等宗教施設へ入場する際には肌を隠さなければならぬため、袖のある服・長ズボンやロングスカート、あるいは腰から下に巻き付けられる大判の布等があるとよい（肘以上の袖丈が望ましいが、半袖でも概ね可。膝丈のハーフパンツは大丈夫な場合とそうでない場合があるよう）。</p>	
<p>(5) 学内外の施設・設備環境について（インターネット環境含む）</p>	
<p>学内・寮ともに Wi-Fi 環境がありはしたが、長期休暇で誰もいない期間などを除き、ほぼ繋がりにくい状態だった。ホテルや飲食店は無料 Wi-Fi が提供されているところも少なくないが、その速度はまちまちである。比較的安定した通信環境を得ようとする、比較的価格設定の高めなホテルや商業施設に行くか、スマートフォンからテザリングするかとなる。プリペイド SIM カードは空港、商店、路上など、市街地であればこここで入手が可能。残高の追加も、スーパーのカウンターなど様々な場所で受け付けている。</p>	
<p>(6) 現地学生や地域との交流について（どのような、機会・きっかけがありましたか？）</p>	
<p>学生寮や学部の図書室、研究室などで日々顔を合わせるため、現地の学生とふれあう機会は日常的にあった。水掛祭りなどの行事やイベントに出かけていくと、学外の人と出会うきっかけになる。また、私はしていないが、伝統舞踊等、習い事をして交流範囲を広げている友人もいた。</p>	
<p>(7) 習慣やマナーの違いによる対人関係等、注意すべきこと</p>	
<p>女性がひとりで出歩くことはあまり良しとされない。ちょっとした買い物や近場のパゴダ参拝などでも誰かと連れ立って行くことが一般的であるため、女性がひとりで行動する際には、それが周囲から見れば非常に「外国人的」行為であるということを知覚しておく、無用なトラブルや意思疎通の行き違い防止になると考える（ひとりで出歩いてはいけない、というわけではない）。</p> <p>公共交通機関でお坊さんと老人に席を譲るのは当然のこととされている。また、立っている人の荷物を座っている人が持つことも日常であるため、知っておくと戸惑わない。</p>	
<p>(8) 日本から持っていくべきもの、持っていくべきでないもの</p>	
<p>持っていくべきものは、整腸剤、胃薬、風邪薬などそのほか飲み慣れた薬。SIM フリーあるいは SIM ロックを解除したスマートフォンがあると、現地でそのまま使えるため便利である。特に滞在が中長期にわたる場合、胃腸の疲れや不具合は不可避といえるので、フリーズドライのお粥やおじやを持参するのはおすすめ。インスタントのお味噌汁はヤンゴンの場合、現地で容易に調達可能。醤油やめんつゆ、納豆など、日本食品のバリエーションはかなり増えているが、なぜかボン酢にはお目に掛からなかった。</p>	
<p>(9) その他生活等に関して参考となる情報・アドバイス</p>	
<p>現地通貨はチャット（Kyat、短縮 Ks、現地語の発音ではチャツ）であるが、外国人が多く来るようなホテルや飲食店、商店だと US ドルが使える（あるいは料金設定がそもそもドルになっている）ことも少なくない。そうした場合は、だいたいは頼めばドル・チャットどちらでも支払が可能である。日本円が両替できる場所もあるが、最も便利な通貨は US ドルである。また、US ドルを両替する場合、紙幣の額面によって換金レートが全く異なるため、高額紙幣を多めに持参することをおすすめする（新札でないと受け取ってもらえない）。ATM は学内を含め街中の至る所にあるため、クレジットカードのキャッシングや海外デビットの利用は容易といえる。基本的には現金主義な土地柄なので、クレジットカードが使える範囲は限られている。</p>	

<h2>6. 帰国後の進路について</h2>	
卒業予定年月	2020年 3月（当初の卒業予定年月 2020年 3月）
卒業が遅れる見込みの場合、その理由	<input type="checkbox"/> 4年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input type="checkbox"/> その他（具体的に _____）
現在の状況および今後の予定・進路等	<p>今後は、フィールドリサーチを実施したのち、博士論文を執筆する予定である。</p>
就職活動や留学前の単位取得、教育実習等に	<p>単位は必要なかったため、特にそのあたりは意識していない。</p>

ついで工夫	
-------	--

7. 留学準備, 留学中に役立った書籍, ウェブサイト等

書籍, サイト名	詳細 (出版社, URL 等)	コメント
『地球の歩き方 ミャンマー (ビルマ)』	ダイヤモンド社	なんだかんだであると便利な歩き方。しかし、公共交通機関の情報 (時刻、路線等) や、施設の入場料等は頻繁に変わるため、参考程度に。
『ミャンマーを知るための60章』	明石書店	ミャンマーの歴史・社会・文化・政治等々、60の短いたピックから広範に知ることができるミャンマー入門書。
『ニューエクスプレスビルマ語』	白水社	ビルマ語 (ミャンマー語) 入門の決定版。現地での生活・文化に即した例文が有用。

8. 留学を振り返って

留学を終えての感想：

文字通り、日本では得られない経験をたくさんできたと実感している。また、今回は学生として8ヶ月というまとまった期間、ミャンマー人学生とともに寮で生活したことで、旅行者とはまたちがう視線でヤンゴンを見つめられたとおもう。毎日の水シャワーに18時の門限と点呼や手洗い洗濯、そうした寮生活の日常だけでも暮らしや文化にまつわる様々なことが垣間見られたし、何より自分の「常識」が打ち崩されていくのは経験していて愉快だった。今回出会った人たちとの交流を、今後も継続していければとおもう。

後輩へのメッセージ：

普段と異なった環境での生活、自分とちがう「常識」に生きる人々との出会い。それには驚きと困難がつきものです。「えー、なんで?」「うそ、マジかよ…」そんなことと向き合っているうちに「ああ、これをこうとらえる・これがこうだから、こういう行動になるのね」とストンと腑に落ちる瞬間がやってきます (「やっぱり解せん」ももちろんありますが)。こうして未知の価値観と出会い理解していくことで、それまで自分が持っていたものごとに対する捉え方が相対化されていきます。それは自分自身の心が自由になっていくことだと言い換えられるのではないかと、私は思っています。生まれ育った環境に留まっても、違いや驚きはそこそこに転がってはいるものですが、母語の範囲から飛び出していくと、その違いはより顕著に、驚きは大きくなっていくことでしょう。遠くへ行って、生活をして、新しい「常識」に出会ってみませんか?

9. 自由記述 (1200字以上)

- ・「学習に関すること」や「生活に関すること」について自由に書いてください。
- ・写真を2〜3枚貼り付けてください。(各写真の容量を100KB程度まで小さくすること)

この留学以前、ミャンマーには2度来訪経験があったものの、そのどちらも1ヶ月を超えない短期の私費滞在であったため、今回、正規の交換留学生として約8ヶ月間ヤンゴンで生活を営むことになったのは、日本にへばりついて生きてきた私にとってはちょっとした冒険であり、文化人類学研究を志す者として「旅行者」ではなく「生活者」として暮らせることは小さからぬ興奮でもあった。留学中滞在したヤンゴン大学女子学生寮 Myat-Lay Student Hostel は、私が来緬した2017年12月に運用開始された新築だったが、ここでの日々は、そうした期待を全く裏切らなかった。ちなみに「運用開始」などという回りくどい表現を使ったのは、入居時点でまだ工事が終了していなかったためである。昼夜続く工事の末、ついに落成を見たのは、翌2018年の4月だった。留学期間の半分近くを工事現場で暮らしたことになるが、こんな経験はこれから先もそうそう得られるものではあるまい。

新築とあってエアコン・Wi-Fi完備を誇っていたものの、どちらも動作はなかなか安定せず、Wi-Fiに関しては私の部屋ではほぼ接続できなかった。しばしば停電する電力供給の不安定さも原因のひとつにあるのかもしれない。その他にも水回りのトラブルなど、住環境を整えることにはなかなか苦労させられたが、教職員のみなさんにはその都度丁寧に対応して頂いた。こうした問題以外にも、給湯設備がないため毎日お湯ではなく水のシャワーを浴びなければいけなかったり洗濯は手洗いだったりと、日本とはちがう毎日に厳しさを感じることもあったが、実際にそうした生活を営むことで、これまで文献や聞き取りでしか知らなかったミャンマーの文化や規範を身にしみて感じることもできた。なかでも、70年代にSpiroが報告している女性の衣類の干しかたに関する決まりが、現在でも十代の学生にいたるまで踏襲されていると気付いたときには、文化の継承を目の当たりにしたような感銘を受けた。

以上のように、ミャンマー人学生や寮監督の先生方と生活を共にし、これまでとは大きく異なる視点でヤンゴンの人々の生活を見つめることができた。ミャンマーをフィールドに文化人類学研究に取り組む私にとって、この事実はただそれだけでも大きな収穫であったといえる。8ヶ月にわたるこうした日々の生活を経て、頭でっかちな教科書的知識でしかなかった私のなかの「ミャンマー」がほんのりと肉付けされたように感じている。厚みのある民族誌的記述を目指すうえで、それはまだ本当に薄っぺらなものでしかないが、無機質だったものに血が通い、温かみが生まれたとするならば、それは今後の研究に向けた大きな一歩といえるだろう。いまこのように前向きにとらえられるのも、送り出してくれた日本のみなさんのサポートと、温かく出迎え、時には放っておいて欲しくなるほどに手厚く支えて下さった教職員をはじめとするミャンマーの皆さんのおかげだ。

日本では政権交代やロヒンギャ問題など、内政の混乱でその名を聞くことが多いミャンマー。勿論それもこの国の一面ではあるが、一方で、その厚い信仰心から日々、当たり前のように他者に助けの手を差し伸べているのもまた、この国のひとつの側面である。留学中、他者に施すことや自身が受けた恩に報いることが非常に重視されていると、度々実感させられた。この報告書がこれから先、このプロジェクトで渡航する人々の役に立てば、私に与えられた機会や経験、受けた恩を、間接的に日緬のみなさんに返すことにもなるだろうか。そんなことを考えながら、すっかりミャンマーに感化されて帰ってきた自分を発見している。

左：元旦のパゴダを訪れる女性修行者たち

中：元旦のシュウェダゴン・パゴダ

左：滞在していた寮の中庭

